



2017 年 5 月 30 日



SUPER FORMULA レースレポート

2017 SUPER FORMULA シリーズ第 2 戦

RACE1 で山本、RACE2 でガスリー、山本が入賞。

シリーズ名：2017 全日本スーパーフォーミュラ選手権 シリーズ第 2 戦
大会名：2017 年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 2 戦 岡山国際サーキット
距離：レース 1 3.703km×30 周 (111.090km)
レース 2 3.703km×51 周 (188.853km)

予選・決勝レース 1：5 月 27 日 (土) 晴れ・観衆:7,100 人 (主催者発表)
予選・決勝レース 2：5 月 28 日 (日) 晴れ・観衆:11,000 人 (主催者発表)

2017 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 2 戦が、岡山県岡山国際サーキットで開催された。TEAM MUGEN は、#16 山本尚貴、#15 ピエール・ガスリーの 2 カー体制でこのレースへ参戦した。今回の大会は、通常のシリーズ戦とは異なる、土曜日に RACE1、日曜日に RACE2 の 2 レース制となっている。

土曜日は、朝にフリー走行を行い、その後 20 分間の公式予選を行って RACE1 のスターティンググリッドを決め、午後に 30 周の決勝レースを行う。RACE1 では、タイヤ交換は義務付けられない。日曜日は、フリー走行は行われず、午前中に Q1 と Q2 で争われるノックアウト予選で RACE2 のスターティンググリッドを決める。午後に行われる決勝レースの距離は 51 周で、こちらのレースではタイヤ交換が義務付けられる。

選手権ポイントは RACE1、RACE2 で通常の 50%、ポールポジションポイントのみそれぞれのレースで 1 点が与えられることになっている。オーバーテイクシステムは、RACE1、RACE2 を通算して 5 回までと制限される。

● 5 月 28 日 (土)

■フリー走行

#16 山本 7 位 1 分 14 秒 344 #15 ガスリー 17 位 1 分 14 秒 643

土曜日午前 8 時 40 分から 45 分間にわたりフリー走行が行われた。岡山国際サーキットは快晴。路面はドライコンディションである。前日の専有走行で破損した#15 ガスリーのマシンは修復され#16 山本とともに快調に走行を始めた。

#16 山本、#15 ガスリーとも、持ち込みセットに微調整を加えながら走行、セッティングを進めた。#16 山本は 22 周を走り、最後に 1 分 14 秒 344 を記録し 7 番手につけた。#15 ガスリーは 23 周を走り 1 分 14 秒 643 の 17 番手で走行を終えた。

■RACE1 公式予選

#16 山本 9 位 1 分 14 秒 293 #15 ガスリー 13 位 1 分 14 秒 424

空は快晴、コースはドライ、気温 20 度、路面温度は 26 度である。コースオープンすると#16 山本、#15 ガスリーともニュータイヤを装着して中団にコースインした。今大会は RACE1、RACE2 を通して 4 セットのニュータイヤを使用できる。

#16 山本は、最初のタイムアタックで 1 分 14 秒 512 を記録、ピットに帰還した。#15 ガスリーは 1 分 14 秒 802 を記録して最初のアタックを終えた。

ピットに帰った 2 車はマシンに微調整を加え、タイヤを交換してタイミングを待つと、セッション残り 6 分となったところで#16 山本が、残り 5 分を切って#15 ガスリーがコースイン、タイムアタックを始めた。#16 山本は狭いコースの中でトラフィックに引っかからないよう自分のポジションを探しながらタイヤをウォームアップ、チェッカーフラッグが振られた後の最終ラップで 1 分 14 秒 293 を記録 7 番手に食い込んだ。その後このタイムは更新されて最終的に#16 山本のスターティンググリッドは 9 番手と決まった。

ガスリーも最終ラップに自己ベストとなる 1 分 14 秒 424 を記録し、スターティンググリッドは 13 番手となった。

■RACE1 決勝

午後 3 時 30 分に、RACE1 のフォーメーションラップがスタートした。RACE1 は 30 周のスプリントレースでタイヤ交換義務はない。スタートでは#16 山本がうまく加速して 5 番手まで順位を上げた。一方#15 ガスリーは 1 コーナーでイン側にいたマシンと軽く接触、順位を落とすと、ホップスコーナーで争っていたクルマにフロントウイングを踏まれて破損、フロントタイヤと干渉して白煙を上げる状況となったため、そのままピットへ戻ることを決めた。

チームはノーズコーンとタイヤを交換、#15 ガスリーをコースへ送り返したが、ほぼ 1 周遅れとなってしまった。一方#16 山本は 5 番手につけると前後に約 1 秒の間隔を確保、ポジションを守りに入った。

1 周遅れになった#15 ガスリーは、チームとも相談の上で RACE2 に向けた確認に徹することになり、途中自らスローダウンして前との間隔を開き、そこからプッシュしたときの状況を確認するなど、決勝レースの環境の中で最適な走り方、タイヤの使い方、セッティングの方向性を探る走り続けた。

30 周のスプリントレースはその後大きな動きなく推移し、#16 山本はポジションを守って 5 位でフィニッシュ、選手権ポイントを 2 点獲得した。#15 ガスリーは 19 位だった。

● 5 月 28 日 (日)

■RACE2 公式予選

#16 山本 (Q1 : 19 位 1 分 15 秒 309 Q2 : DNS)

#15 ガスリー (Q1 : 7 位 1 分 14 秒 685 Q2 : 5 位 1 分 14 秒 566)

快晴の午前 9 時 20 分、2 段階のノックアウト方式で RACE2 の公式予選が行われた。20 分間の Q1 で 19 台のうち上位 10 台が Q2 へ進出し、10 分間のインターバルを経て Q2 でトップ 10 の順位を争う形式である。

#16 山本、#15 ガスリーともコースがオープンとなると中団でコースイン、状況を確認すると一旦ピットへ帰還した。この段階で#16 山本は 14 番手、#15 ガスリーは 18 番手。タイムアタックのタイミングを待ってピットに待機していた#16 山本、#15 ガスリーはセッション残り 8 分となったところでコースイン、タイムアタックに入った。

最初にタイムアタックを行ったのは#15 ガスリー。10 周目に 1 分 14 秒 685 を記録してこの時点で 4 番手へ浮上する。これに続いて#16 山本もタイムアタックに入り、セクターではベストタイムを更新し始めた。ところがここでコース上に停車車両が生じたためセッションは赤旗で中断され、#16 山本のタイムアタックは打ち切らざるをえなくなった。

コース整備の後、予選セッションは残り 2 分 30 秒で再開された。#16 山本はタイムを更新しようとタイムアタックに入った。ところが最終コーナーでコントロールを失ってハーフスピン、マシンを破損することはなかったものの、赤旗前のタイムを更新できず 1 分 15 秒 431 でスターティンググリッド最後尾が決まってしまった。#15 ガスリーは、赤旗前に記録したタイムで最終的には 7 番手で Q2 に進出した。

午前 10 時から 10 分間で始まった Q2 では、#15 ガスリーは残り 7 分の段階でコースイン、タイムアタックにかかった。タイムは Q2 のタイムを更新する 1 分 14 秒 566。スターティンググリッドは 5 番手となった。

■RACE2 決勝

#15 ガスリー 7 位 (51 周 ベストラップ 1 分 16 秒 968)

#16 山本 8 位 (51 周 ベストラップ 1 分 16 秒 191)

午後 2 時 28 分、快晴の空の下、決勝のスタートが切られた。気温 27 度、路面温度 41 度と初夏のようなコンディションである。スタート合図の瞬間、5 番手スタートの#15 ガスリーが好加速、前の選手に並びかかろうと進路を外側にとった。しかし前を走る選手が外側によってきたため#15 ガスリーはコースをはみ出し、逆にポジションを落とした。

チームの作戦で、ピットストップのタイミングを決める優先権はグリッド上位にいる#15 ガスリーにあった。#15 ガスリーとチームは、ポジションを落とした段階で 1 周目のピットインを決め、タイヤ交換義務を果たすためピットインした。

後方の#16 山本は、#15 ガスリーに続いて 2 周目にピットインする作戦も考えていた。しかし 2 周目にも前方でピットインする選手が多かったので、「それなら自分は真逆でいこう」とピットインを先延ばししてコース上にステイする作戦に切り替えた。前方の選手がピットインした結果、#16 山本の前方には空間ができており、自分のペースで走り続けられる有利な状況になっていたからだ。

ピットインを終えてコースに復帰した#15 ガスリーは実質上のポジションをひとつ落とし、見かけ上は 11 番手でレースを再開した。一方コース上にステイした#16 山本の順位は、最初のピットストップが一段落した 4 周目には見かけ上 6 番手へと上がっていた。

その後 6 周目には#16 山本は見かけ上 5 番手へ上がり、レース中盤の周回を重ねた。レースが残り 20 周となったところで#16 山本が動き、ピットインした。タイヤ交換を行いコースに復帰した 33 周目、#16 山本の実質上の順位は、8 番手の#15 ガスリーに続く 9 番手となっていた。ステイしている間に#16 山本は最後尾から大幅に順位を上げていたのである。レース終盤、#15 ガスリー

と#16 山本は 2 秒弱の間隔で 8 番手、9 番手を走る。

38 周目、上位を走っていた選手が第 2 コーナーでコースオフしたためセーフティーカーがコースイン、隊列を組んでの走行が始まった。順位は繰り上がって#15 ガスリーが 7 番手、#16 山本が 8 番手。レースは 43 周目から再開されたが、その後レースでは大きな順位変動は起きず、51 週のレースにチェッカーフラッグが振り下ろされた。#15 ガスリーは今シーズン初入賞となる 7 位、#16 山本が 11 台を抜いて 8 位でフィニッシュした。

この結果、#16 山本は RACE1 で 2 点、RACE2 で 0.5 点、#15 ガスリーは 1 点の選手権ポイントを獲得し、ドライバーランキングでは#16 山本がトップから 1.5 点差の 3 番手、#15 ガスリーが 14 番手に並んだ。3.5 点を加え、チームランキング 3 番手につけた。

■山本尚貴選手コメント

「クルマの特性を変えたいんだけど、変えたいところが変わらないという課題を抱えてのレースでした。予選では、走り出しからもっとレベルを上げるためにはどうすればいいのか悩み、9 番手に終わりました。それでも、決勝ではスタートを上手く決め、スタート直後の混乱もうまく抜けて 5 番手へ上がれました。RACE1 では現状できる精一杯のことはできたかなと思っています。RACE2 でも、予選から考えるとベストを尽くせたかなと思います。まさかポイントが取れると思っていませんでした。ステイしているとき 1 回、ピットからピットに入るか？と言われたんですが、クルマの調子も良かったのもうちょっと様子を見させてくれと言ってステイを続けました。失敗した予選からすぐに決勝レースで、精神的にはきついものがありました。最後尾からスタートしてポイントが 0.5 点とはいえ獲れたのでかなり大きな意味があると思います。チームとしても 2 台入賞できたし、ここから立て直して残りのレースを頑張りたいと思います」

■ピエール・ガスリー選手コメント

「クルマは、少しアンダーステアが出たり、ブレーキングのスタビリティが足りなかったりと細かい課題はあるが、だいたい良い感じです。RACE1 では、ターン 1 で外側のラインを走っていたら接触して、3 ポジションほど落としてしまいました。今度はターン 11 でフロントウイングを踏まれて左タイヤから煙が出始めたのでピットに入りました。残念なレースになってしまいましたが、1 周ほど遅れてしまったので、RACE2 のためのテスト・練習だと思って残りを走りました。RACE2 ではスタートで外側から前に出ようとしたところ押し出されてランオフエリアを走ったときにタイヤが草を拾ってしまい、グリップが下がり順位を落としたので、そのままタイヤ交換を行いました。その後はプッシュしたのですが、順位を上げるのは難しかったです。でも選手権ポイントも取れましたし結果が出たことには満足しています。様々なトライをしたので、次の富士ではもっと速いクルマにしてもっと良い成績を残します」

■手塚長孝監督コメント

「Race1 は予選順位とスタートが重要でした。2 台共満足いく順位では無かったです。ただし得られる物もあったので Race2 に活かしましたね。山本選手は良いスタートで 5 位まで上げましたし、ガスリー選手も試す走行をするなど経験値を増せました。Race2 は山本選手の予選順位は本人が一番悔しかったと思います。ガスリー選手は 5 位と躍進しましたが、本人はもっと上を目指していましたね。優勝した 19 号車とピットインが同じであり、19 号車が優勝したことを考えれば悔しいです。車のトータルの強さが不足していたと思います。一生懸命に学習しながら走ってくれました。山本選手は最後尾スタートという事もあり、ガスリー選手のピット後に判断してくれました。前がクリアーだった事もありピットに入らずタイム確認をしましたね。中段グループよりはタイムは良かったしスタートが良かったから結果 8 位となりました。2 台共ですが優勝できるレベルには無かった事は申し訳ありません。次の富士へ向けてもっとクルマのパフォーマンスを上げられるようチーム全体でしっかりミーティングをして備えたいと思います。チームとしては不足の課題を捉えて修正し、2 台体制を活かして良い結果に繋げていきます。引き続き応援よろしくお願いたします」



